

平成29年 3 月期第 2 四半期 決算説明資料

株式会社ユビキタス

代表取締役社長 佐野勝大

2016年11月15日

© 2016 Ubiquitous Corporation. All rights reserved.

This presentation is for informational purposes only. Ubiquitous makes no warranties, express or implied, in this summary.



Agenda

- 第2四半期業績の概要
- セグメント・製品分野別動向と取り組み
- トピックス

第2四半期 業績の概要

第2四半期（累計期間）の概況

業績：計画を下回り推移

- 売上高 連結 5.1億円／ 個別 3.3億円（前期比19.2%減）
- 営業利益 連結△1.7億円／ 個別 △1.6億円

セグメント別概況

- コネクティビティ事業：
スマートエネルギー関連等受託開発、既存顧客ロイヤルティの獲得
加賀電子社と協業、電力小売市場向けに高機能ホームゲートウェイ機器、
HEMSソリューションを販売開始
- 組込みソフトウェア事業：
車載機器、OA機器を中心とした既存顧客からのロイヤルティ売上獲得
- ソフトウェアサービス事業
(連結子会社である株式会社エイムの事業に関するセグメント)：上期業績は概ね予算通り進捗

損益計算書（連結）

単位：百万円

	前 年 同 期	H29/3期 第 2 四 半 期	前年同期比
売 上 高	—	518	—
営 業 利 益	—	△ 176	—
経 常 利 益	—	△ 177	—
四 半 期 純 利 益	—	△ 196	—

※連結財務情報公表はH29/3期の1Qからのため、連結の前年同期比は記載していません。

損益計算書（個別）

単位：百万円

	前 年 同 期	H29/3期 第 2 四 半 期	増減率
売 上 高	408	330	△19.2%
営 業 利 益	△106	△ 167	—
経 常 利 益	△104	△ 160	—
四 半 期 純 利 益	△105	△ 162	—

※連結財務情報公表はH29/3期の1Qからのため、連結の前年同期比は記載していません。

セグメント及び製品分野別の売上高進捗

単位：百万円

セグメント	分野	前年同期 (個別)	H29/3期 第2四半期 (連結)	増減率	
コネクティビティ 事業	組込みネットワーク	150	109	△27.0%	織り込み済のデジタル家電等の旧 来顧客との取引が減少、予算比は エネルギーマネジメント関連でやや 上振れ
	サービス & ソリューション	80	64	△19.0%	電力小売自由化による切り替え需 要及び来年のガス小売自由化関連 取引増による前期比増の予算が、 いずれも想定以下の進捗で下振れ
	小 計	230	174	△24.2%	
組込み ソフトウェア 事業	データベース	69	56	△18.3%	織り込み済の旧来顧客の取引の減 少、予算比はやや上振れ
	高速起動	109	99	△9.3%	既存顧客ロイヤルティは堅調も、 新規案件獲得増で前期比増の予算 が、評価長期化等により、下振れ
	小 計	178	155	△12.8%	
ソフトウェアサービス事業		—	188	—	概ね予算通りに進捗

※連結の増減率は、非連結の前年同期に対する増減比となります。

セグメント別売上及び利益

単位：百万円

		前 年 同 期 (個 別)	H29/3期 第2四半期 (連 結)	増 減 額
コネクティビティ事業	売 上 高	230	174	△55
	セ グ メ ン ト 利 益	△132	△187	△55
組込み ソフトウェア 事業	売 上 高	178	155	△22
	セ グ メ ン ト 利 益	26	20	△5
ソフトウェア サービス事業	売 上 高	—	188	—
	セ グ メ ン ト 利 益	—	37	—

※連結の増減率は、非連結の前年同期に対する増減比となります。

貸借対照表（連結） 資産の部

単位：百万円

	平成28年3月31日 (前期末)	平成28年9月30日 (当第2四半期末)	増減額
流動資産	—	2,213	—
現金及び預金	—	748	—
売掛金	—	221	—
有価証券	—	1,199	—
その他	—	42	—
固定資産	—	718	—
資産合計	—	2,931	—

※連結財務情報公表はH29/3期の1Qからのため、連結の前期末比は記載していません。

貸借対照表（個別）資産の部

単位：百万円

	平成28年3月31日 (前期末)	平成28年9月30日 (当第2四半期末)	増減額
流動資産	2,921	2,043	△878
現金及び預金	1,363	656	△707
売掛金	332	167	△164
有価証券	1,199	1,199	0
その他	25	19	6
固定資産	173	892	701
資産合計	3,095	2,936	△159

貸借対照表（連結） 負債・純資産の部

単位：百万円

	平成28年3月31日 (前期末)	平成28年9月30日 (当第2四半期末)	増減額
負債合計	—	139	—
流動負債	—	104	—
固定負債	—	34	—
純資産合計	—	2,792	—
資本金	—	1,464	—
資本剰余金	—	1,434	—
利益剰余金	—	△138	—
その他	—	31	—
負債純資産合計	—	2,931	—

※連結財務情報公表はH29/3期の1Qからのため、連結の前期末比は記載しておりません。

貸借対照表（個別） 負債・純資産の部

単位：百万円

	平成28年3月31日 (前期末)	平成28年9月30日 (当第2四半期末)	増減額
負債合計	110	107	△3
流動負債	85	83	△2
固定負債	24	23	0
純資産合計	2,984	2,828	△156
資本金	1,457	1,464	7
資本剰余金	1,427	1,434	7
利益剰余金	57	△104	△162
その他	42	34	△7
負債純資産合計	3,095	2,936	△159

通期業績予想（連結）に対する進捗

単位：百万円

	通期 業績予想	第2四半期 実績	進捗率 (%)
売上高	1,520	518	34.1
営業利益	△97	△176	—
経常利益	△95	△177	—
純利益	△98	△196	—

通期業績予想（個別）に対する進捗

単位：百万円

	通期 業績予想	第2四半期 実績	進捗率 (%)
売上高	1,100	330	30.0
営業利益	△98	△167	—
経常利益	△87	△160	—
純利益	△89	△162	—

セグメント及び分野別 動向と取り組み

組み込みネットワーク関連

■ 事業全体

- スマートライフ関連、車載機器関連等で「Ubiquitous Network Framework」「Ubiquitous DLNA」「Ubiquitous DTCP-IP」の受託開発等の収益獲得
- 半導体メーカーとのセキュリティ関連共同研究プロジェクトの受託開発の収益継続獲得
- 「Ubiquitous TPM Security」が新規顧客との間でロイヤルティ売上、契約時一時金等を獲得

■ 今後に向けて

- 加賀電子社との間で共同開発した高機能HEMSゲートウェイ機器及び、HEMSソリューションの電力小売市場参入業者への販売を開始
- 車載機器、業務機器などのIoT向けセキュリティ製品のソリューション販売を強化
- 村田製作所社を含めた半導体メーカー複数社との協業推進を継続

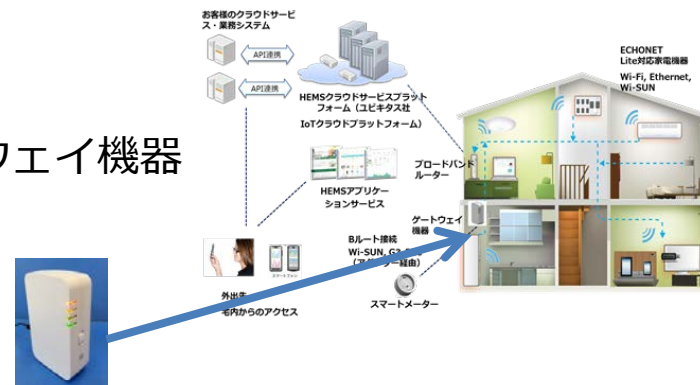


■ 事業全体

- 電力小売事業への参入事業者との間でのスマートエネルギー関連の受託開発、ロイヤルティ等の収益を獲得
(但し、電力小売自由化に伴う電力契約切り替え低調により、想定を下回る収益)
- 「dalchymia」は、IoTクラウドプラットフォーム市場への参入事業者が増加傾向であり、また市場全体的に小規模な試験導入が多く、収益化に遅れ

■ 今後に向けて

- 加賀電子社と共同開発した高機能HEMSゲートウェイ機器販売と共に「dalchymia」を利用促進を図る
- IoT関連協業パートナー獲得を推進

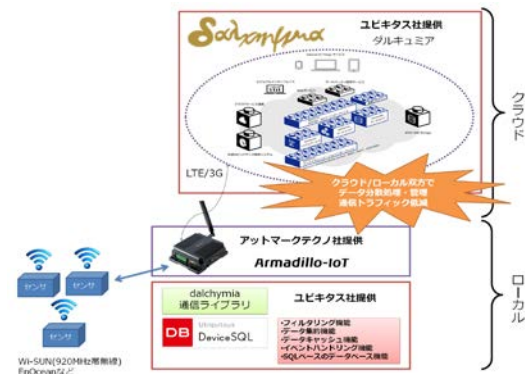


■ 事業全体

- 既存顧客より安定したロイヤルティ収益等を獲得
 - ・ OA機器、産業機器等の既存顧客を中心に

■ 今後に向けて

- 車載機器、OA機器、検査機器、産業機器などに向けた拡販
- IoT機器の分散データ処理ソリューションの展開



組込みソフトウェア事業 高速起動関連

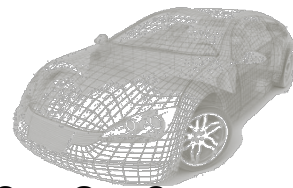


■ 事業全体

- 車載機器（カーナビ）関連中心に拡販中
 - ・ 既存顧客の出荷堅調のためロイヤルティ収益が安定
 - ・ カーナビ各社の多数に浸透、新規横展開獲得含め、製品化に向けた開発、評価が進行中
 - ・ 車載以外の新規案件は想定より評価期間が長期化し収益獲得に遅れ
 - ・ 海外展開、車載機器、一般消費者向けデジタル機器案件の評価等対応進捗

■ 今後に向けて

- 次世代車載機器に加え、産業機器、デジタル機器でUIを持つ機器、海外企業のAndroid/Linux搭載デジタル機器への営業活動強化、拡大
- 車載SoCの最新技術(マルチコア、セキュリティなど)対応のCPU(R-Car Gen3, i.MX6xなど) への対応、OSプラットフォームの拡大



ソフトウェアサービス事業



■ 事業全体

- 既存顧客との取引を堅実に実行し収益を確保
 - 車載機器分野を中心とした各種ソフトウェアの開発受託
 - 車載機器向けの「YOMI」データコンテンツに関するライセンス使用料売上等

■ 今後に向けて

- グループシナジーとして、開発リソースの効率的活用と自社保有技術、IPのグループ内での拡販を強化

トピックス

加賀電子社とのEMS(エネルギーマネジメントシステム) ソリューション協業

- 加賀電子社の高性能HEMSゲートウェイ製品化で協業、「dalchymia」を含めた加賀電子社のHEMSソリューションとして販売展開

HEMS/EMSトータルソリューション

クラウドサービス対応 高機能HEMSゲートウェイ

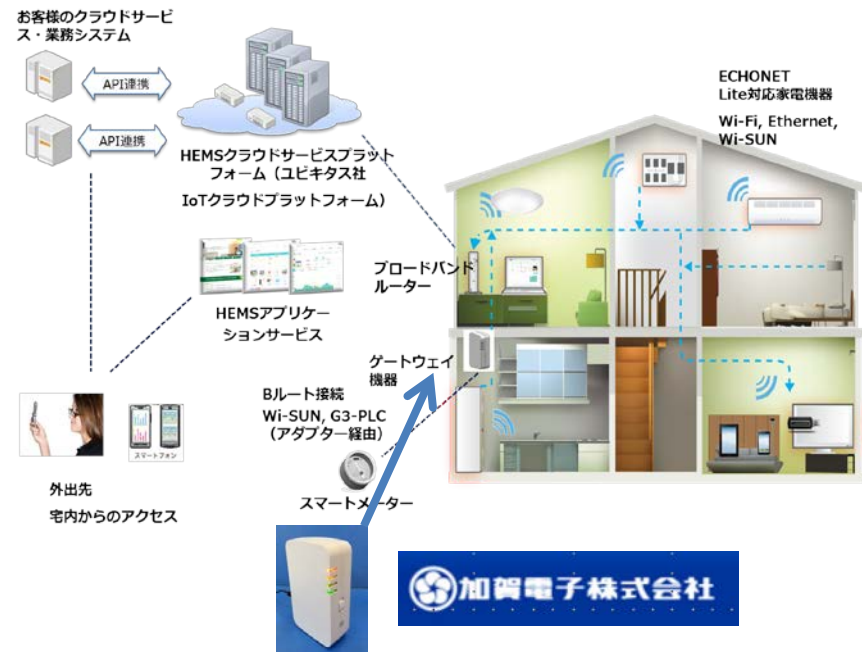
- ・スマートメーター対応 (Bルート)、電力情報を収集
- ・ECHONET Liteコントローラー機能を搭載、ECHONET Lite対応機器を制御・可視化
- ・宅内で収集した情報をインターネット経由で送信、クラウド上での見える化、遠隔操作機能を実現

クラウドサービス基盤

- ・ゲートウェイと連携したHEMSクラウドサービス基盤をご提供
- ・ECHONET Lite対応機器の使用状態、電力量使用状況などをクラウド上で表示・蓄積、見える化や自動遠隔制御に必要な機能を提供
- ・お客様のクラウドサービスとAPIで連携が可能

カスタマイズによる機能追加 (オプション・別料金)

通信プロトコル・通信方式の追加、独自クラウドサービス連携 (開発費が必要となります)



スマートエネルギー、スマートホームソリューションへのパートナーとの取り組みを強化

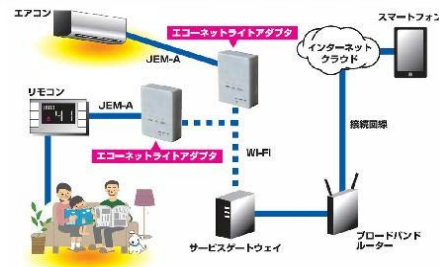
muRata

INNOVATOR IN ELECTRONICS

- 2016/11/10発表
- 920MHz帯Wi-SUN無線通信モジュールにUbiquitous Wi-SMART、Ubiquitous ECHONET Liteが採用
- HEMS、スマートホーム無線対応機器開発を加速

Y(\$D 大和電器株式会社

エコネットライトアダプタ導入イメージ



- 2016/11/14発表
- エコネットライトアダプタにUbiquitous ECHONET Liteが採用
- 既存、既設のHEMS・家電機器をWi-Fi対応ECHONET Lite機器として活用可能に

Appendix

平成29年 3 月期 第 2 四半期 開示一覧

発表日		プレスリリース
第 2 四半期	8月18日	■ スーパーラグビー日本チームサンウルブズ戦において実施したボランティア本人認証・動態測位の実証実験について成果を発表～ボランティアの受付時間をおよそ8割削減、参加ボランティアの満足度は96%～
	8月24日	■ 都市型災害の発生を想定した避難訓練での行動が見える化～サイバートラスト社、ユビキタス社が東京都公園協会主催の「都市型被災訓練」に協力～
第 3 四半期 (参考)	10月25日	■ 加賀電子社とユビキタス社、高機能なHEMSゲートウェイ機器を共同開発、クラウドプラットフォームを含むソリューションとして販売を開始～個別開発不要で短期間・低コストのHEMS・クラウドサービス開発を実現～
	11月10日	■ ユビキタス社、組込みデータベース最新版「Ubiquitous DeviceSQL 5.2」を発売～64ビットOS環境への対応を強化～
	11月11日	■ Ubiquitous Wi-SMARTが村田製作所社の920MHz帯無線通信モジュールに採用Ubiquitous ECHONET Liteの対応モジュールを追加～電力自由化で注目されているHEMS機器開発コンポーネントの対応を拡充～
	11月14日	■ Ubiquitous ECHONET Liteが大和電器社のエコーネットライトアダプタに採用～既存のHEMS・家電機器をWi-Fi対応ECHONET Lite機器として活用可能に～

平成29年 3 月期 第 2 四半期 開示一覧

開示日		適時開示
第 2 四半期	7月1日	■行使価額修正条項付き第11回新株予約権（第三者割当て）の月間行使状況に関するお知らせ
	8月1日	■行使価額修正条項付き第11回新株予約権（第三者割当て）の月間行使状況に関するお知らせ
	9月1日	■行使価額修正条項付き第11回新株予約権（第三者割当て）の月間行使状況に関するお知らせ
第 3 四半期 (参考)	10月3日	■行使価額修正条項付き第11回新株予約権（第三者割当て）の月間行使状況に関するお知らせ
	11月1日	■行使価額修正条項付き第11回新株予約権（第三者割当て）の月間行使状況に関するお知らせ
	11月7日	■平成29年 3 月期第 2 四半期累計期間 業績予想の修正に関するお知らせ

セグメント変更について（参考）

当期第1四半期より、**株式会社エイムの連結子会社化**により、同社の事業に関するセグメントとして新たに「**ソフトウェアサービス事業**」セグメントを追加し、グループ全体で3セグメントに変更

■旧セグメント

セグメント	分野
コネクティビティ事業	組込みネットワーク関連
	サービス&ソリューション関連
組込みソフトウェア事業	データベース関連
	高速起動関連



■新セグメント

セグメント	分野
コネクティビティ事業	組込みネットワーク関連
	サービス&ソリューション関連
組込みソフトウェア事業	データベース関連
	高速起動関連
ソフトウェアサービス事業	

質疑応答概要

【Q1】

前期(平成28年3月期)のマゼランシステムズジャパン社(以下、マゼラン社)に対する出資分に関する投資有価証券の減損処理の理由は？

【A1】

当社が出資した時点におけるマゼラン社の事業計画につき、期末の時点で計画通りに進捗していない点についての会計上の評価となりますが、マゼラン社の事業が停滞しているわけではなく、マゼラン社の取引先の販売計画がずれたことによる影響を受けたことが理由として大きいものと理解しています。

なお、当社は、純投資目的で出資をしたわけではなく、事業連携を目的として出資しています。

マゼラン社の中期計画にある新製品と当社のdalchymiaを連携させたソリューションの開発や、マゼラン社のプロジェクトのソフトウェア開発分を当社が行う形での顧客への共同提案など、いくつかのテーマで事業連携の取り組みが進捗しています。

【Q2】

11月7日発表の業績予想の修正開示では、電力自由化関連市場の動向、IoTクラウドプラットフォームの競争激化等複合的な理由があげられているが、事業環境が大きく変わってきているのかどうか、その変化に関する認識を聞きたい。

【A2】

スマートエネルギー関連市場については、電力小売自由化による電気契約の切り替え需要は現状、想定以下ではありますが、来年のガス小売自由化に向けて活性化されると見ており、実際に複数の開発案件の引き合いや受注も増えてきており、これらを確実にこなすことで期末に向けて収益を積み上げていきたいと考えております。

車載機器関連市場は、既存顧客との取引は比較的安定的であるものの、新規顧客向けの取り組みとしては業界の状態が変わりつつあります。つまり、自動車は、内燃機関が電気(モーター)に大きく動きつつありますし、コネクティッドカーへの移行が進みつつあるに伴いセキュリティ、IT化に関わる複合的な技術革新が行われる段階になっています。

これは当社にとってチャンスである一方、従来と異なる技術革新により、案件の提案先が今までの会社から別の会社になってしまうことや、提案していた案件のプラットフォームや、スケジュールが変わってしまうこともあるため、うまくコントロールしながら対応する必要があります。

質疑応答概要

【Q3】

多くの企業が参入している中、IoTプラットフォーム市場に関する当社の市場認識と、当社の戦略をお聞きたい。

【A3】

IoTは、仕組みやテクノロジーであり、IoT自体がマネタイズを実現するのではなく、IoTの仕組みをどのような分野に適合し、ビジネスを実現するかになるかがポイントになると思われます。

2つステップがあると言われています。

まずは、例えばIoTの技術を活用することで、製造業において、データの収集・分析を行うことによりデータを可視化し、業務の効率化と生産性向上の実現が考えられます。この分野は、収益としてはじわじわと伸長していくものと考えられます。

次のステップとしては、収集されたデータを、業種横断的に解析した結果（例えば、製造業や流通業のデータとヘルスケア事業のデータをかけあわせて）、を基に新しいサービスを構築することで、短期間で大きな成長が実現することが考えられますが、このフェーズまで到達しているものは少ないと思われます。

これを実現するには、ディープラーニング、AI（人工知能）が重要になります。この分野ではグーグル社や、マイクロソフト社等の海外勢が先行して、日本は遅れをとっている状況であると感じています。しかし、国としても挽回すべく、日本初の人工知能をしっかりと作ろうという動きがあり、IoTの仕組みを活用した収益化を実現するための動きは活発になってきているものと思われます。

現在のIoTビジネスにおいては、IT系グローバルメジャー企業を中心に、データを収集するクラウド側のプラットフォームサービスを大規模に展開しており、同じ領域で競合することは現実的ではありません。一方、機器の情報を収集するためには、機器側がネットワークに接続することが重要となりますが、この部分に技術的な課題があると考えています。

当社は、この機器をネットワークに接続するために必要な組込み技術の強みを生かして、IoTビジネスにおける収益化に取り組んでいます。



Ubiquitous

株式会社ユビキタス

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 1-21-1 明宝ビル 6F TEL:03-5908-3451 FAX:03-5908-3452

E-MAIL:sales_info@ubiquitous.co.jp URL:www.ubiquitous.co.jp Ubiquitous Corporation